

第4学年 図画工作科学習指導案

対 象 4年3組 男19名, 女16名 計35名

1 題材名 まぼろしの花 - 絵 - (日本文教出版 3・4下)

2 題材について

(1) 児童について

本題材にかかわる事前アンケートを行ったところ、次のような結果となった。

自分の思いを絵で表すことが得意である。	得意	31% (11人)	
	どちらかという得意	20% (7人)	
	どちらかという苦手	29% (10人)	
	苦手	20% (7人)	
試したことがある技法・道具	・スパッタリング	35人	・コラージュ 12人
	・ドリッピング, スタンプング	32人	・こする 10人
	○たんぼ, ローラー	34人	・パチック 17人
色のイメージ	赤	→燃える, 太陽, 強い, 明るい, 暑い, 勇ましい, 暖かい, 熱い, 夕焼け, 明るい, 温かい, 優しい, 夏, 太陽, 楽しい, 勇気, 秋	
	黄色	→明るい, 軽い, さわやか, まぶしい, 楽しい, 元気	
	緑	→森, 葉, 自然, 平和, さわやか, 夏	
	青	→空, 海, さわやか, 涼しい, 水, 冷たい	
	紫	→不思議, 不気味, 深い, 怖い, 夜, 暗い, カッコいい	
	黒	→強い, 暗い, 重い, 夜, 寂しい, 闇	
白	→明るい, 優しい, 雲, 雪, 冬, 軽い, ふわふわ, 光, さわやか		

この結果から、試したことがある技法の多くは授業で学習したものであるが、それを組み合わせたり、自分で選び表現したりした経験は少ない。そこで、自分のイメージした花に合った色や技法を選び、表現する力を付けさせたい。

(2) 題材について

3年時では「まほうのとびらをあけると」の学習において、扉の形や開き方を考え、扉の向こうに広がる世界を想像して表す作品をつくった。また、4年時では、「絵の具でゆめもよう」の学習において、ドリッピングやスパッタリングなどのモダンテクニックを用い、様々な模様を表したり模様を組み合わせたりする学習を行った。

本題材の中心となる指導事項として、A表現(2)ア、ウを指導事項の中心として取り上げ、特に「ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」を重点として指導していく。これまで体験してきた様々な技法を工夫して、どんな思いで花を咲かせたいのか、そして友達はどうな思いで花を咲かせようとしているのかを伝え合わせることで、それぞれの思いを豊かにさせ、表現の仕方を工夫する意欲につなげたい。また、創作しながらイメージを膨らませ具体化させていくことで、色や形に関する新たな見方・考え方に気付かせたいと考えてこの題材を設定した。

(3) 指導について

本題材では、花は「まぼろし」であるので、児童のイメージの広がりや作品づくりの鍵となる。そこで、「まぼろしの花」は、「自分にしか咲かせることのできない」ということからイメージを膨らませて思いのままに表現できるよう、始めに種づくりを設定する。「まぼろしの花」は、どのような種から、どのような芽が出て、どのように伸びて、どのように咲くのか、思いや期待を膨らませる。また、児童が自分の思いに合った形や色の表し方をしたり、そこから生まれる物語を考えたりするなど具体的にイメージすることができるように、簡単な言葉や絵でメモをさせる。さらに、製作途中で、友達との伝え合いを通して、互いの表現のよさや面白さを味わうことができるようにしていきたい。

3 題材の目標

- (1) 造形への関心・意欲・態度
自分なりのまぼろしの花を想像して、絵に表すことを楽しもうとする。
- (2) 発想や創造の能力
自分が描きたい花を想像して、形や色などの表し方を考える。
- (3) 創造的な技能
表したいことに合わせて、材料や用具の使い方を工夫する。
- (4) 鑑賞の能力
自分や友達の描いた絵を見て、互いの作品のよさや面白さを味わう。

4 指導と評価の計画

時	題材名	造形への関心・意欲・態度	発想や創造の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
小3	まほうのとびらをあけると 扉の向こうに広がる不思議な世界を想像し、表し方を工夫して絵で表す。	扉の向こうに広がる世界を想像し、絵で表すことを楽しもうとしている。	扉の向こうに広がる世界の様子を想像し、表したいことを考えている。	表したいことに合わせて、描き方や身近な材料の使い方を工夫している。	自分や友人の描いた絵を見て、扉の向こうの世界について話し合い、よさや楽しさを味わっている。
小4	絵の具でゆめもよう 絵の具でいろいろな表し方を試しながらつくった紙を使い、形や色、組み合わせを考えながら工夫して絵で表す。	絵の具で色々試し、表すことを楽しもうとしている。	いろいろな表し方でできる形や色の組合せや、できた紙を使って表すことなどを考えている。	色を重ねたり、絵の具を混ぜたりするなど、いろいろ試しながら表し方を工夫したり、模様の紙の組合せ方を工夫したりしている。	自分や友人と工夫したところを見せ合い、よさや面白さを感じ取っている。
1	まぼろしの花 どんな花にしたいか考え、アイデアスケッチを描く。	自分だけのまぼろしの花を考えようとしている。	伸びる芽や茎、花などを想像しながら表し方を考えている。		
2 【本時】	咲かせたい花の形や色の構想を練る。	まぼろしの花を想像して、絵で表すことを楽しもうとしている。	想像したことから、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すか考えている。		
3	自分の表したい花を表現する。	想像を膨らませながら絵で表すことを楽しもうとしている。		自分の表したいことに合わせて、材料や用具を用い、工夫して表している。	
4	作品を鑑賞し合う。	進んで友だちの描いた絵を見て、面白いところや工夫したところを見付けようとしている。			自分や友人の描いた絵を見て、面白いところや工夫して表していることを見付けている。
小5	まだ見ぬ世界 心にとまった写真から、まだ見たこともない世界の形や色を想像し、表し方を工夫して絵で表す。	「まだ見ぬ世界」を想像して、絵で表すことに取り組もうとしている。	心にとまった写真から、「まだ見ぬ世界」の形や色を想像し、表し方を考えている。	想像した世界を表すために材料や用具の特徴を生かして、画面の組み立てや色などを考え、表し方を工夫している。	友人と作品を見せ合い、「まだ見ぬ世界」を想像して、工夫して表したよさや美しさを感じ取っている。

5 本時の指導

(1) 目標

表したい「まぼろしの花」を基に、形や色の特徴に目を向けて、どのように表すか考えることができる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準
造形への関心・意欲・態度	まぼろしの花を想像して、絵に表すことを楽しもうとしている。
発想や構想の能力	想像したことから、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すか考えている。

(3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 5分	1 前時の想起 2 課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分の花にぴったりの形や色を見付けよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の表したい、まぼろしの花を確認する。(前時のメモやイラスト) ● 身近な花やこれまでの栽培した花などを思い出す。
展開 35分	3 課題の解決 (1) 前時の絵やメモを基に表現する。 ・材料を選びながら花を描く。 ・配色を考えながら、思いに合った彩色をする。 (2) イメージを膨らませるために、グループで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現と鑑賞の能力が相互に関連するように、思ったことや考えたことを友だちと話しながら絵に表すことを伝える。 ● 困っている児童には、伸び方やどんどこころに咲くのか、葉の形など、花が咲くイメージをもたせるような声かけをする。 ● 表現のよさや面白さを共有させ、工夫につなげる。 ◎ まぼろしの花を想像して、絵に表すことを楽しもうとしている。 (作品、活動の様子) ◎ 想像したことから、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すか考えている。(観察、作品)
終末 5分	4 振り返り ・自分の表現や活動を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【振り返り 例】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明るい花を表そうと黄色や橙色を中心に使ってかいた。 ・ 優しいイメージを表そうとにじみを多く取り入れ、花びらも丸い形にした。 ・ ○○さんのアイディアでパチックをし、強い感じを出した。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 形や色に着目して振り返るようにさせる。 ● 友だちからのアドバイスをもとに取り入れた点について振り返らせる。
	5 次時の確認	● 次時の活動への見通しをもたせる。

(4) 板書計画

まぼろしの花

自分の花にぴったりの形や色を見付けよう。

まぼろし

- ・世界に一つだけ
- ・めったにない，咲かない
- ・めずらしい
- ・なかなか見ることができない

スパッタリング

こする

にじみ

タンポ